

実験グループ



挑戦と成長

臨床薬学研究室で、まだ解明されていないことへの挑戦と将来的な患者さんへの治療につながることにやりがいを感じながら実験を行うことができました。また、ただ実験手技を学ぶだけでなく“なぜ”“どうして”ということを考えながら実験を進めることで問題解決型の思考が身につき、自ら積極的に調べ、行動することの重要性を学びました。

英語に関しては、元々英語が苦手だったので最初は不安がありました。しかし、どの留学生も優しいので下手な英語でも一生懸命聞いてくださり、さらに先生方の支えもあったので、問題なく実験に取り組むことができました。また、苦手克服のために積極的に英語に接することで1年間でTOEICの点数が200点以上もアップすることができました。

この1年間で実験だけでなく、その他多くの経験ができ、成長することができたと思います。



22年期生のテーマ

- **糖尿病性腎症におけるポドサイトでのエンドセリン受容体Aの役割**
糖尿病マウスとノックアウトマウスを作り、臓器を摘出。そこから目的のタンパク質の発現を調査。
- **細胞外基質プロテオグリカンのアテローム性動脈硬化進展における役割**
ChGn-2K0マウスとWTマウスを作製し、プロテオグリカン発現量と動脈硬化の関連を調査。
- **ストロプトゾン誘発性糖尿病ラットにおけるスリット膜蛋白質局在の形式学的変化の検討**
糖尿病ラットにおけるスリット膜蛋白質のヘマトキシリン・エオジン染色、蛍光免疫染色。
- **心不全発症におけるエンドセリンの役割の探究**
心不全モデルマウスを作り、血圧、心エコー測定、シウスレッド染色等を行い、心不全とET-1の関係性を調査。
- **プロスタグランジントランスポートの血圧の制御における役割の解明**
遺伝子欠損マウスにおける各種負荷状態における血圧制御の解明。
- **低酸素肺高血圧マウスモデルにおけるエンドセリン変換酵素-1とブラジキニンの役割**
低酸素誘発性肺高血圧症モデルを作製し、染色などを行い肺高血圧のメカニズムを調査。

